

図 16 カスケード接続の例

本体の任意の RJ-45 ポートに UTP ケーブルを接続し、もう一端を接続先機器の任意のポートに接続します。

8 設定

通信速度 / 通信モードの設定

本製品と接続先機器の通信モードは、次の表の○印の組み合わせになるように設定してください。

IEEE 802.3u 規格のオートネゴシエーション機能をサポートしていない製品と本製品を接続する場合は、接続先機器のポートの通信モードを Half Duplex に設定してください。

接続先ポート		GS916L	
		Auto	
10M/ 100M	Half	○	
	Full	—	
1000M	Auto	○	
	Auto	○	

9 トラブルシューティング

「通信できない」とか「故障かな?」と思われる前に、以下のことを確認してください。

● POWER LED は点灯していますか?

POWER LED が点灯していない場合は、電源ケーブルに断線がないか、電源ケーブルが正しく接続されているか、正しい電源電圧のコンセントを使用しているかなどを確認してください。

● 電源をオフにした後、すぐにオンにしていませんか?

電源をオフしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

● LINK/ACT LED は点灯していますか?

LINK/ACT LED は接続先機器と正しく接続されている場合に点灯します。点灯しない場合、以下のことを確認してください。

- 接続先機器に電源が入っていることを確認してください。
- 正しい UTP ケーブルが断線なく正しく接続され、障害がなく通信可能な状態にあることを確認してください。
- UTP ケーブルに問題がないか確認してください。ケーブルの不良は外観からは判断しにくい（結線は良いが特性が悪い場合など）、他のケーブルに交換して試してみてください。
- ケーブルの長さが制限を超えていないことを確認してください。2つのネットワーク機器の直接リンクを形成する UTP ケーブルは最長 100m と規定されています（ただし、100Mbps のクラス II のリピーターをカスケード接続する場合のリピーター間は 5m 以内としてください）。

- ケーブルを別のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。特定のポートが故障している可能性もあります。

- 接続先機器の通信モードを確認してください。本製品のポートは、オートネゴシエーション機能をサポートしています。IEEE 802.3u 規格のオートネゴシエーション機能をサポートしていない製品と本製品のポートを接続する場合は、接続先機器の通信モードを Half Duplex に設定してください。

10 製品仕様

準拠規格		
	IEEE 802.3	10BASE-T
	IEEE 802.3u	100BASE-TX
	IEEE 802.3ab	1000BASE-T
	IEEE 802.3x	Flow Control
適合規格		
安全規格	UL60950-1 CSA-C22.2 No.60950-1	
EMI 規格	VCCI クラス A	
電源部		
定格入力電圧	AC100 - 120V	
入力電圧範囲	AC 90 - 132V	
定格周波数	50/60Hz	
定格入力電流	2A	
最大入力電流	0.66A	
平均消費電力	31W (最大 34W)	
平均発熱量	110kJ/h (最大 120kJ/h)	
環境条件		
動作時温度	0 ~ 40℃	
動作時湿度	80% 以下 (結露なきこと)	
保管時温度	-20 ~ 60℃	
保管時湿度	95% 以下 (結露なきこと)	
外形寸法 (突起部含まず)		
	305(W)x182(D)x44(H)mm	
質量		
	1.9kg	
スイッチング方式		
	ストア&フォワード	
MAC アドレス登録数		
	8K (最大)	
MAC アドレス保持時間		
	300 秒	
メモリー容量		
パケットバッファ容量	512KByte	

11 保証と修理

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

0120-860332
 携帯電話 / PHS からは：045-476-6218
 月～金 (祝・祭日を除く) 9:00 ~ 12:00
 13:00 ~ 17:00

● 保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命、身体に対する被害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)につきましても、弊社はその責をいっさい負わないこととします。

12 ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

http://www.allied-tesis.com.jp/support/info/
 0120-860772
 携帯電話 / PHS からは：045-476-6203
 月～金 (祝・祭日を除く) 9:00 ~ 12:00
 13:00 ~ 18:00

13 サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合により連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

● 一般事項

すでに「サポート ID 番号」を取得している場合、サポート ID 番号をお知らせください。サポート ID 番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡先などの詳細は省略していただくことができます。

- サポートの依頼日
- お客様の会社名、ご担当者名
- ご連絡先
- ご購入先

● 製品について

製品名、製品のシリアル番号 (S/N)、製品リビジョンコード (Rev) などのハードウェア情報をお知らせください。

製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品に貼付されているシリアル番号シールに記入されています。



図 17 シリアル番号シール (例)

● 設定や LED の点灯状態について

- LED の点灯状態をお知らせください。

● お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのが、またそれはどのような状況で発生するのかわかる限り具体的に (再現できるように) お知らせください。

● ネットワーク構成図について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をお送りください。

- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

14 ご注意

本書に関する著作権などの知的財産権は、アライドテレシス株式会社 (弊社) の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。弊社は、予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがあります。弊社は、改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2006-2007 アライドテレシスホールディングス株式会社

15 商標について

CentreCOM は、アライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

16 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (V C I) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

17 廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただけますようお願いいたします。

18 日本国外での使用について

弊社製品を日本国外へ持ち出されるお客様は、下記窓口へご相談ください。

0120-860442
 月～金 (祝・祭日を除く) 9:00 ~ 17:30

19 マニュアルバージョン

2006 年 3 月 Rev.A 初版
 2007 年 10 月 Rev.B 設置方向に関する記述追加



613-000227 Rev.B 071026

ギガビットイーサネット・スイッチ

CentreCOM® GS916L ユーザーマニュアル

この度は、CentreCOM GS916L をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本製品は、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポートを 16 ポート装備したギガビットイーサネット・スイッチです。本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後も大切に保管してください。

1 特長

- 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポートを 16 ポート装備
- 19 インチラックマウントキットを標準装備
- AC 電源を内蔵
- ポートの通信状況が一目でわかる LED を装備
- オートネゴシエーション機能をサポート
- 全ポート MDI/MDI-X 自動切替機能をサポート
- フローコントロール機能をサポート
Half Duplex 時: バックプレッシャー Full Duplex 時: IEEE 802.3x PAUSE
- Jumbo フレーム対応 (9728 Bytes 以下)
- 最大 8 K の MAC アドレスを登録可能

オプション (別売)

- 壁設置用ブラケット AT-BRKT-J22 により、壁面への設置が可能
- マグネット Kit XS により、スチール製壁面への設置が可能
- 電源ケーブル抜け防止金具 AT-RTNR-01 に対応

製品の最新情報について

本製品リリース後の最新情報を弊社のホームページにてお知らせします。

http://www.allied-tesis.com.jp/

2 アイコンの説明

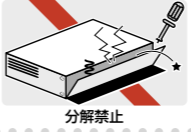
アイコン	意味	説明
	ヒント	知っている便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

安全のために

必ずお守りください

警告 下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

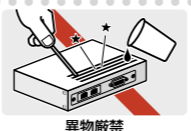
分解や改造をしない
 本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



雷のときはケーブル類・機器類にさわらない
 感電の原因となります。



異物はいれない 水は禁物
 火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。



通風口はふさがらない
 火災や感電のこもり、火災の原因となります。



湿気やほこりの多いところ 油煙や湯気のある場所には置かない
 火災や感電の原因となります。



表示以外の電圧では使用しない
 火災や感電の原因となります。本製品は AC100-120V で動作します。



正しい電源ケーブル・コンセントを使用する
 不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。接地端子付きの 3 ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの 3 ピン電源コンセントに接続してください。



コンセントや配線器具の定格を超える使用はしない
 たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



設置・移動のときは電源プラグを抜く
 感電の原因となります。



ケーブル類を傷つけない
 特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。ケーブル類やプラグの取扱上の注意
 ・加工しない、傷つけない。
 ・重いものを載せない。
 ・熱器具に近づけない、加熱しない。
 ・ケーブル類をコンセントなどから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

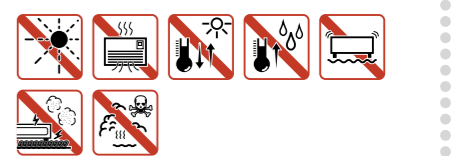


正しく設置する 縦置き注意
 取扱説明書に従って、正しく設置してください。不適切な設置により、放熱が妨げられると、発熱による火災の原因となります。



ご使用にあたってのお願い

- 次のような場所での使用や保管はしないでください
- ・直射日光のあたる場所
 - ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
 - ・急激な温度変化のある場所 (結露するような場所)
 - ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所 (仕様に定められた環境条件下でご使用ください)
 - ・振動の激しい場所
 - ・ほこりの多い場所や、ジュエタンを敷いた場所 (静電気障害の原因となります)
 - ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意
 本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクタの接続部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り扱いにはくい
 落としたり、ぶつかけたり、強いショックを与えたりしないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で
 誤動作の原因となります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く
 汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤 (中性) をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で拭き上げてください。



お手入れには次のものは使わないでください
 石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉 (化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書きに従ってください)



4 各部の名称と機能

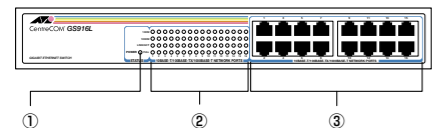


図1 外観図 (正面)

- POWER LED (緑)**
本体に電源が正常に供給されているときに点灯します。
- PORT LED**
 - 100M、1000M (緑)
100Mは、ポートが100Mbpsで動作しているときに点灯します。1000Mは、1000Mbpsで動作しているときに点灯します。100Mと1000Mが消灯しているときには、10Mbpsで動作していることを示します。
 - LINK/ACT LED (緑)
ポートと接続先機器がリンクしたときに点灯します。また、パケットを受送信しているときに点灯します。
 - FULL LED (緑)
ポートがFull Duplexで動作しているときに点灯します。消灯している場合は、Half Duplexで動作していることを示します。
- 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポート**
10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-TのUTPケーブルを接続するためのコネクタです。接続先の種類(MDI/MDI-X)にかかわらず、ストレート/クロスどちらのケーブルでも使用できます。また、これらのポートはオートネゴシエーション機能をサポートしているため、最適な通信速度と通信モードを自動設定します。

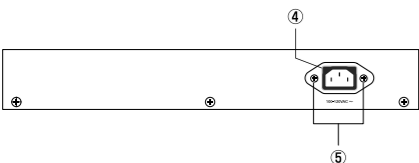


図2 外観図 (背面)

- 電源コネクタ**
電源ケーブルを接続するためのコネクタです。
- 電源ケーブル抜け防止金具取り付けネジ**
オプション (別売) 電源ケーブル抜け防止金具 (AT-RTNR-01) の取り付けに使用します。
- 壁面設置穴 (2箇所)**
本製品を壁面に設置するための穴です。
- ゴム足 (4箇所)**
- マグネット Kit 取り付けネジ穴 (4箇所)**
オプション (別売) のマグネット Kit を取り付けのネジ穴です。

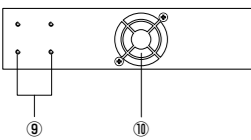


図3 外観図 (底面、ポート下向き)

- 19 インチラックマウントブラケット取り付け穴 (4箇所)**
同梱の19インチラックマウントブラケットを取り付けるためのネジ穴です。
- ファン**
本体内部の熱を逃がすためのファンです。

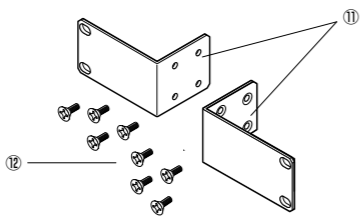


図5 19 インチラックマウントキット

- 19 インチラックマウントブラケット取り付け穴**
EIA規格の19インチラックに取り付けるときに使用します。
- ブラケット取り付けネジ**
ブラケットを本体に固定するネジです。

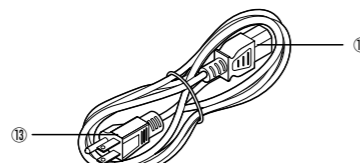


図6 電源ケーブル

- 電源プラグ**
電源ケーブルを電源コンセントに接続するためのプラグです。
- 電源コネクタ**
電源ケーブルを本製品に接続するためのプラグです。

5 設置

本製品の設置を始める前に、必ず「安全のために」をよくお読みください。

設置方法

本製品は、次の方法による設置ができます。

- ゴム足による水平方向の設置
 - 同梱のラックマウントキットによる19インチラックの水平方向の設置
 - タッピングスクリーによる壁面への設置
- オプション (別売) を利用することにより、次の方法による設置ができます。
- 壁設置ブラケット (AT-BRKT-J22) による壁面への設置
 - マグネット Kit XS によるスチール製壁面への設置

弊社指定品以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。

水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほこりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合には直ちに使用を止め、弊社サポートセンターにご連絡ください。

設置準備

● 設置するときの注意

本製品を設置する場所を確認してください。設置場所については、次の点にご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさけてください。
- テレビ、ラジオ、無線線などのそばに設置しないでください。
- 傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。

- 底部を上にして設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- 本体の上にものを置かないでください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。
- コネクタの端子にはさわらないでください (静電気を帯びた手 (体) でコネクタの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります)。

設置

● 平らなところに設置する

本製品をデスクの上などに設置して使用する場合は、必ずゴム足がついていることを確認してください。衝撃を吸収するクッションの役目をします。

マグネットキットとゴム足は同時に使用することはできません。

● 19 インチラックに取り付ける

本製品は、同梱の専用19インチラックマウントキットを使用して、EIA規格の19インチラックに取り付けることができます。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずす
- ブラケットを取り付ける

同梱の19インチラックマウント用ブラケットを付属のネジを用いて、本体の両側面にしっかりと固定してください。

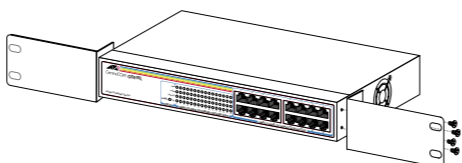


図7 ブラケットの取り付け

- 19 インチラックに取り付ける

19インチラックの任意の位置に本体を合わせ、適切なネジ (別途ご用意ください) でしっかりと固定してください。

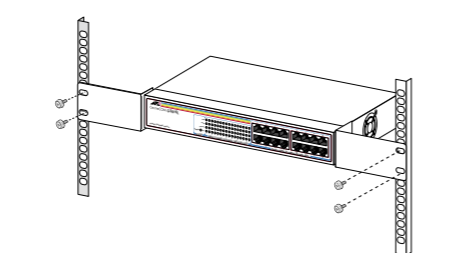


図8 19 インチラックへの取り付け

ブラケットおよびブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用し、19インチラックに適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

オプションを利用した設置

● 壁面への取り付け

本製品の壁面への設置は、別売の壁設置ブラケット AT-BRKT-J22 を使用し、以下の点に注意して行ってください。

- ・ 壁設置ブラケットの使用法は、AT-BRKT-J22の取扱説明書をご参照ください。
- ・ 本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

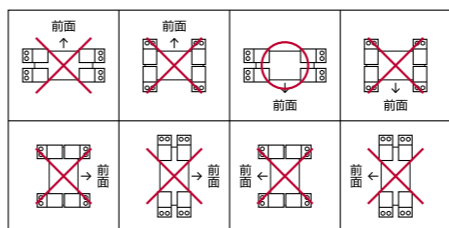


図9 取り付け可能な方向

壁設置ブラケットに取り付け用ネジは同梱されていません。別途ご用意ください。
壁設置ブラケットを使用する際は、本製品からゴム足を外してください。

必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因になります。
壁設置ブラケットを使用して壁面に取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

● スチール製壁面への設置

本製品のスチール製壁面への設置は、別売のマグネット Kit XS を使用し、以下の点に注意して行ってください。

- ・ マグネットキットの使用法は、マグネット Kit XS の取扱説明書をご参照ください。
- ・ 本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

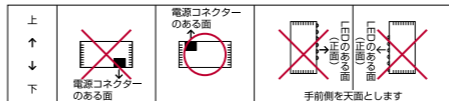


図10 マグネットキットを使用する場合の設置方向

設置面の状態によっては、マグネットの十分な強度を得られない場合があります。

必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因になります。
マグネットの取り付けおよび機器の設置は、ケーブルなどの重みにより機器が落下しないように確実に行ってください。ケガや機器破損の原因となるおそれがあります。

タッピングスクリーによる壁面への設置

本製品は、壁面設置用タッピングスクリーを使用することにより壁面に取り付けることができます。

本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

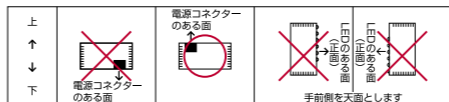


図11 タッピングスクリーを使用する場合の設置方向

必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因になります。

取り付けはしっかりした壁に行ってください。手で押しただけでへこんでしまうような壁には取り付けしないでください。

石膏ボード、ベニヤなど中空になっている壁に取り付ける場合は、プラスチックアンカーを併用してください。
タッピングスクリーはM3を使用してください。なお、本製品には、壁面設置用タッピングスクリーおよびプラスチックアンカーは同梱されていません。使用の際は、お客様にてご用意ください。

- 設置場所と設置方向を決める

電源ケーブルおよびUTPケーブルの接続が可能であること、また、LEDの表示が監視可能であることを確認してください。

- タッピングスクリーをねじ込む

タッピングスクリーの間隔が本体底面にある2箇所の壁面設置穴の間隔と同じになるようにタッピング

スクリーをねじ込みます。このとき、ネジと壁の間を1mmほど残してください。

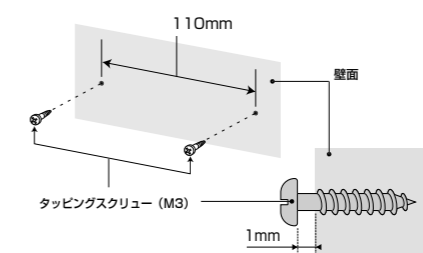


図12 タッピングスクリーの間隔

プラスチックアンカーの使用について

プラスチックアンカーを使用する場合は、きりやドリルなどで開けた穴に挿し込み、かなづちで軽くたたいて壁に埋め込んでください。

穴はプラスチックアンカーが入る程度の大きさにしてください。穴が大きすぎると落下の原因となります。

- 本体を壁に取り付ける

壁から突き出ているネジ頭を本体底面の取り付け穴にさし込むようにして取り付けます。このとき、ネジ頭がスロットにはまるまで本体をスライドさせ、しっかりと固定させてください。

ネジ頭を壁から出し過ぎた状態にてご使用になりますと、GS916Lを壁に取り付けた際に製品内部に干渉し、故障の原因となります。

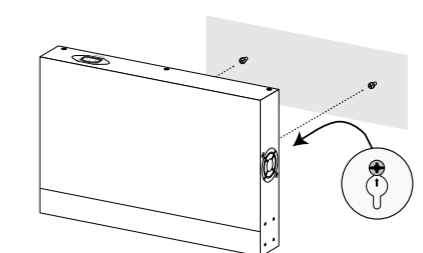


図13 本体の取り付け

6 接続

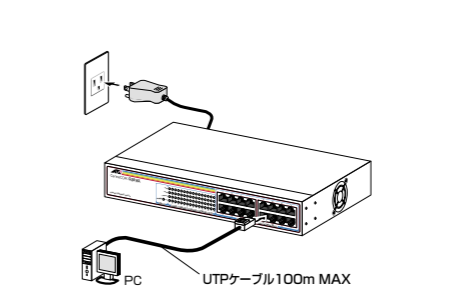


図14 接続図

ネットワーク機器の接続

● UTPケーブルの接続

UTPケーブルを使用して本製品とPCなどの端末を接続します。本体のLANポート (RJ-45) にUTPケーブルの一端を接続し、もう一端をネットワークポートに接続します。

UTPケーブルのコネクタ部を持ち、カチッと音がするまで差し込んでください。

● UTPケーブルのカテゴリ

10BASE-T 接続の場合はカテゴリ 3 以上、100BASE-TX カテゴリ 5 以上、1000BASE-T 接続の場合はエンハンスド・カテゴリ 5 以上のUTPケーブルを使用します。

● UTPケーブルのタイプ

本製品はMDI/MDI-X自動切替機能をサポートしているので、接続先の種類 (MDI/MDI-X) を意識することなく、ど

ちらのケーブルタイプ (ストレート/クロス) でも使用できます。

● UTPケーブルの長さ

本製品とネットワーク機器を接続する長さは100m以内にしてください。

電源ケーブルの接続 (本製品の起動)

本製品は、電源ケーブルを電源コンセントに接続することで電源が入ります。

本製品を使用する場合は、必ず製品に同梱されている電源ケーブルをご使用ください。不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電のおそれがあります。

本製品には電源スイッチがありません。電源ケーブルを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。

本製品は、オプション (別売) の電源ケーブル抜け防止金具 (AT-RTNR-01) に対応しています。

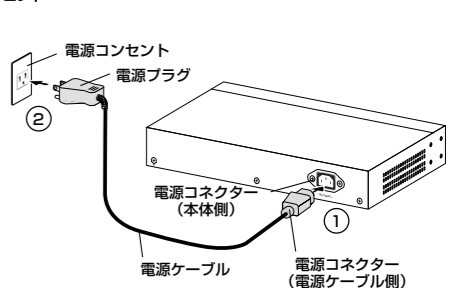


図15 電源ケーブルの接続

- 本体側の電源コネクタを接続する。
図15の①をご覧ください。
- 電源プラグを電源コンセントに接続する
図15の②をご覧ください。
このとき、本体前面のPOWER LED (緑) が点灯することを確認してください。
UTPケーブルが正しく接続され、接続先機器とのリンクが確立されると、接続したポートのLINK/ACT LED (緑) が点灯します。

本製品の停止

本製品を停止するには、電源コンセント側の電源プラグを抜いてください。

電源コンセント側に差し込んだまま、本体背面に接続した電源コネクタを抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。

電源をオフしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

7 カスケード接続

本製品は、全てのポートでMDI/MDI-X自動切替機能をサポートしていますので、ケーブルの種類 (ストレート/クロス) および接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) を意識することなく、簡単にカスケード接続ができます。

スイッチ同士のカスケード接続は、カスケードできる数に理論上の制限がありません。そのため、用途に合わせてネットワークを拡張することができます。

カスケードの段数はネットワーク上で動作しているアプリケーションのタイムアウトによって制限される場合があります。